学校通信　椙小　11月号

2026（令和８）年10月30日

椙山女学園大学附属小学校

外遊びに隠された力

校　長　　相　川　保　敏

暑さの厳しい秋から、ようやく過ごしやすい秋を迎えました。思い切り体を動かせる季節の到来です。校庭や４階グラウンドで遊ぶ子どもたちの姿も増えてきたように感じます。そこには、友達と声を掛け合い、笑顔いっぱいで体を動かす子どもたちの姿があります。そんな様子を見ていると、遊びは子どもたちにとって欠かすことのできない、大切な活動であると改めて感じます。



【４階グランドで駆け回る子ども】

低学年から高学年まで、子どもたちが共通して楽しんでいる外遊びの一つに、「鬼ごっこ」や「どろけい」といった追いかけごっこ遊び（本校では「鬼遊び」と呼んでいます）があります。私自身も、子どもの頃に「どろけい」や「缶蹴り」をよくしていたことを思い出します。特別な道具を必要とせず、友達が集まればすぐに始められるこうした遊びは、昔も今も子どもたちを夢中にさせる魅力をもっています。

こうした外遊びの特徴は、広い場所を駆け回り、友達と一緒に楽しむことにあります。一人では成立せず、相手がいて初めて楽しさが生まれます。屋外の広い空間だからこそ、思い切り走り、追いかけ、逃げることができます。学校は、さまざまな個性をもつ子どもたちが集まり、共に生活する場です。だからこそ、友達と関わりながら楽しむ遊びは、集団生活を学ぶ学校にふさわしい活動の一つといえるでしょう。

では、子どもたちは遊びを通して、どのような力を身に付けているのでしょうか。

鬼から逃げたり、相手の動きを見ながら追いかけたりすることで、走る力や持久力、素早く方向を変える敏捷性などの身体能力が自然に育まれます。さらに、「どちらに逃げれば捕まらないだろう」「仲間を助けるにはどう動けばよいだろう」と、状況を見ながら判断し、工夫する力も養われます。遊びに夢中になる中で、子どもたちは体と頭を同時に働かせているのです。

そして、遊びには「心の成長」という大切な側面もあります。集団で遊ぶためには、ルールを守り、友達と約束を確認し合う必要があります。勝って喜ぶこともあれば、負けて悔しい思いをすることもあります。時には意見がぶつかったり、思い通りにならなかったりすることもあるでしょう。しかし、そうした経験こそが、相手の気持ちを考えること、自分の思いを伝えること、互いに譲り合うことを学ぶ機会になります。協働性や社会性も育っていくのです。

一方で、学校生活の中で、子どもたちが十分に遊ぶ時間や場所を確保することは、簡単ではありません。限られた休み時間には、それぞれが自分のしたい活動や遊びを行います。「鬼遊び」のような遊びは夢中になって走るうちに友達同士がぶつかる危険もあり、安全を確保するために遊び方や活動場所を制限せざるを得ないこともあります。本校の４階グランドでの鬼遊びは、曜日によって決められた２学年が優先されます。遊びの自由さや楽しさを大切にしながら、安全をどのように守っていくか。これは学校にとって難しい課題の一つです。

だからこそ、子どもたち自身が周囲の状況に目を向け、相手のことを考え、安全に遊ぶための約束を理解することも大切です。大人が危険を取り除くだけでなく、子どもたちが友達と関わりながら、安全な遊び方を学んでいくことも、成長につながると考えます。

遊びは、単に体を動かして楽しむだけの時間ではありません。身体を鍛え、人と関わり、時には失敗しながら、よりよい関係を築くことを学ぶ時間です。子どもたちが安心して遊びに夢中になれる環境を、子どもたちとともに考え、工夫していきたいと思います。